

令和6年度 小平市立小平第四小学校 学校評価報告書

学校教育目標 教育基本法等の諸法規に則り、「他者と豊かにかかわり、知性を働かせ、明日を切り拓く子ども」の育成を図る。 ○健康な子 ○考える子 ○やさしい子 ○おこなう子

目指す学校像(ビジョン) 『みんなの笑顔が輝く学校』（学ぶことに喜びを感じられる学校、他を思いやり心と心が通い合う学校、励まし合い助け合っているみんなの笑顔が輝く学校）
【目指す学校像】 「健康な子：心身ともに健康で、毎日の生活を充実させることができる子」 「考える子：課題解決に向けて、主体的・対話的で深い学びができる子」
【目指す児童・生徒像】 「やさしい子：自分の大切さとともに他の人の大切さを認めることができる子」 「おこなう子：目標をもち、主体的に行動することができる子」
【目指す教員像】 「明るく、元気で前向きな教師」「授業実践力等を磨くために、絶えず自己研鑽に励む教師」「児童への愛情を十分に注ぎ、職務を全うできる教師」「同僚、保護者、地域と協働し、児童のために全力を発揮できる教師」

前年度までの学校経営上の成果と課題
 (成果) 全員参加型の授業改善を進めたことで児童の学習意欲やスキルを高めた。生活指導についても、教員の問題発見力や組織的対応力が高まり、児童が落ち着いて集団生活を送ることができるようになった。
 (課題) 学力の定着の二極化傾向が見られ、一定の児童の学力の底上げが課題である。「主体的・対話的で深い学び」の学習指導及び個に応じた指導(補習・家庭学習)の充実が必要である。

	具体的方策	第1回評価		成果・課題・対策	第2回評価		学校関係者評価	成果・課題・次年度以降の対策
		取組指標	成果指標		取組指標	成果指標		
学力向上	四小検定や読書に親しむ習慣を身に付けさせる取組、週1回の補習、家庭学習等を通して個の状況に応じた学習指導の工夫に取り組み、基礎学力の向上を図る。	2	4	教員の中に個の状況に応じた学習指導法について課題意識がある。一方、児童は学習に対して意欲的であることから、より確かな学力を身に付けることができるよう個別最適な指導法について追究していく。	3	4	校内研究はもちろん、教科担任制や交換授業の取組によって組織的に授業力を高めようとしていることが分かる。学力調査で明らかになった課題への改善指導も実施された。	各学年概ね目標を達成することができた。引き続き個別最適な学習を実現するための学習指導の在り方を追究していく。
	校内研究では国語の学習指導の工夫を中軸に据え、授業のエンパワーサルデザインを追究する。また、教科担任制や交換授業のシステムを構築し、自己研鑽に励む。校外の研修で得た内容は、校内に還元・共有する。	3	3	校内研究では国語の読み取りの力を高める研究の2年目を迎え、授業UDの視点を踏まえた実践の重要性に気付くことができた。検証を重ね、授業力を高めていくことが課題である。	4	4	校内研究では昨年度に引き続き国語を中心とした、授業UDの視点の重要性を深く認識することができた。本年度は、本研究の集大成として研究をまとめたり、他教科への応用の検証を進めたりしていく。	校内研究では昨年度に引き続き国語を中心とした、授業UDの視点の重要性を深く認識することができた。本年度は、本研究の集大成として研究をまとめたり、他教科への応用の検証を進めたりしていく。
健全育成	「四小スタンダード」や「月目標」についての自己評価を行い、振り返りに次に生かす主体的な取組を促す。	3	4	「四小スタンダード」について、教員間に温度差が生まれにくいようにすることが課題である。「月目標」の振り返りを月半ばに一度行い、意欲付けの機会とする。	4	4	「月目標」の振り返りの方法は有効であり、児童の意識付けにつながっていることが分かる。いじめについては、学校経営協議会などでも共有し、学校・家庭・地域が一体となって、未然防止や早期発見・早期解決を図ることが重要であるため、協力したい。	「四小スタンダード」については、児童や保護者と確認しつつ、現状に合った内容になっているか見直ししていくようにする。「月目標」の振り返りを月半ばにすることで意識付けを行うことができたので、次年度は月全体の成果の活かし方についても探っていく。
	全教職員でいじめ防止基本方針を理解し、「いじめ見逃し0」を重視する。いじめ防止授業及び計画的ないじめ調査を行い、実態を把握して指導に生かす。保護者・地域と連携しながら、いじめ防止対策を進める。	3	3	いじめ防止授業の実践と定期的ないじめ調査を行い、未然防止、早期解決に努めることができる。組織的に対応するシステムを構築する。	4	3		「いじめ防止基本方針」について改訂されたことを踏まえ、改めて教職員全員で共通理解を図り、保護者にも周知し、連携・協力を依頼する。学期に1回の定期的な調査を通して、いじめの早期発見及び「いじめ防止基本方針」に基づいた迅速な対応力をより高めていく。
健康・体力向上増進	目標値を設定して体力テストに取り組んだり、業間体育等の体育的活動を通して運動に親しむ取組を充実させたい。	3	3	体力・運動能力の向上を図るため、スポーツタイムを全校で実施し、運動の機会を増やすことができた。児童が外遊びを継続的にやり、体を動かすことができるような仕掛けを工夫していく。	3	4	児童の体力向上のための取組から学校全体の指導の工夫が伝わってくる。保健等の指導や取組、配布物による啓発も充実していることが分かり、子どもも大人も参考になり、役立つ内容である。	体力向上をめざした取組を学校全体をあげて行うことができた。この意識付けが、持続するよう「運動の日常化」のための仕掛けを工夫していくことが課題である。積極的に健康な生活を実践することのできる資質・能力を育成すべく具体的な手立てを検討し、講じていく。
	保健の授業や保健便りを活用して、自己の健康について振り返り、生活の中で具体的に生かす習慣を身に付けさせる。	3	4	保健の授業や保健便り、計測時の保健指導等を活用して、日々の生活の仕方について見直す機会を設けることができた。学期始めに「生活リズム週間」を設定することで、スムーズな学校生活の再開につながっていたのでこの取組を3学期も実施する。	4	3		担任と養護教諭が連携し、保健の授業や保健指導等を行ったことで、児童が自己の健康について見直すことができていた。栄養士が担任と協力しながら食育の観点からも、自己の生活を振り返る取組を実施することができた。
地域連携教育の推進	地域教育コーディネーターと連携し、ゲストティーチャーや地域教育ボランティアを意図的・計画的に活用し、教育活動をより豊かなものにする。	3	4	地域の協力を多く得られる点が本校の強みである。このような活動を各学期バランスよく実施することが課題である。	4	4	学校支援チームや保護者、地域の方の協力によって、充実した活動ができていることが分かる。学校評価アンケートにおいても他の項目より高評価を得ていることから本校の強みととらえてよい。	ゲストティーチャーや地域教育ボランティアの協力を得て、全学年、体験的な学習の充実を図ることができた。地域の力を活用した学びの価値が子どもにも大人にも伝わっているため、今後もよりよい在り方を検討していく。
	学校支援チーム(ナラミスタッフ・学童農園)との連携教育活動を通して、体験的な学習や本物に触れる機会を充実させ、児童の興味・関心を高め、知識の習得を図る。	3	4	学校支援チーム(ナラミスタッフ・学童農園)と連携して行う学習の計画立案を共有することができている。今後も、地域連携を密に行い、安全にも配慮しながら継続実施する。	4	4		どの学年も充実した体験的な学習を行うことができた。特に、本物に触れる学習については地域人材を活用したことで学習効果を高める機会を設けることができた。
教職員業務の改善・働き方	提案文書配付や共有すべき連絡事項は原則デジタルを活用することで、会議時間と勤務時間を短縮し、業務の改善を図る。(無くす・減らす)	3	4	会議時間を意識しながらデジタルを活用して、効率よく行うことが定着してきている。校内研究の授業観察などもデジタルを導入し試行錯誤している。より有効な活用を増やしていくことが課題である。	3	3	各種取組が、教職員の働き方改革の成果につながっているようで好ましい状況である。教科担任制は業務軽減にもつながることが教員の複数の報告から感じられた。	デジタル化が進み、業務軽減につながっている。一方、デジタル化によるデメリットやリスクも踏まえながらより効果的な導入や定着をめざす。
	SSSを活用したり、校務分掌を精査したり、教科担任や交換授業を取り入れたりする等して、業務改善を図る。(変える)	4	4	SSSとの連携が円滑に行われていることで、教職員の業務軽減を実現している。また高学年のみならず低・中学年においても教科担任制や交換授業の取組が進み、授業力向上はもちろん、業務軽減にもつながりつつある。	4	4		複数の教員がライフワークに合わせて出退勤をコントロールできつつある。今後もSSSの活用はもちろん業務の精査やシステムの見直しを進めていく。